

# 29年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成29年 3月1日～ 29年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は6社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
入荷動向	国産材	8.3	8.3	0.0
	外材	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	国産材	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	外材	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0

・国産ラミナの入荷は3月、4月のやや増加が、5月は横ばい。外材は3カ月連続して減少。

・国産ラミナの在庫は3月の横ばいが、4月、5月はやや減少。外材は3カ月連続で減少。

### (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/3月	4月	5月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・ラミナの購入価格は国産材、その他は3カ月連続して横ばい。欧州材はやや強含み。

## モニターからのコメント

### (ラミナ荷動き)

・国産材、特に集成材については入荷は横ばい状態が続くが、外材（米ヒバ）の原料は減少が予想される。これに伴って外材（米ヒバ）の在庫は減少の見込み。  
・スギ・カラマツ共に横ばいであり、比較的安定している。カラマツは北海道で丸太不足の時期となっているため不安はある。スギ・カラマツ共に順調に集荷出来ており、在庫量は安定している。

### (ラミナ価格動向)

・原木の価格の波を極力おさえて、ラミナ価格は横ばいが予想される。製品市場も少し落ちつくので、ラミナ価格も大きな変化はないものとする。  
・スギ・カラマツ共に横ばい。

## 29年3月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/3月	4月	5月
生産動向	国産材	25.0	33.3	16.7
	WW集成管柱	△ 25.0	25.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	16.7	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	8.3	8.3	16.7
	WW集成管柱	△ 25.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	0.0	△ 16.7
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材の構造用集成材生産は3ヵ月連続して増加。WW集成管柱及びRW集成平角は3月の減少が、4月増加、5月横ばい。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばいで推移。

・国産構造用集成材の出荷は3ヵ月連続してやや増加。WW集成管柱は3月の減少が、4月、5月は横ばい、RW集成平角は3月の減少が、4月は横ばい、5月は減少。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばいで推移。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/3月	4月	5月
スギ集成管柱	25.0	25.0	25.0
ヒノキ集成柱	16.7	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	33.3	16.7	33.3
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	16.7	16.7	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	0.0	50.0	50.0

・スギ集成管柱及びヒノキ集成土台は強含みで推移。ヒノキ集成柱は3月のやや強含みが、4月、5月は横ばい。

・カラマツ集成土台、WW集成管柱、米マツ集成平角及び米ヒバ土台角は3ヵ月連続して横ばい。

・RW集成平角は3月、4月のやや強含みが、5月は横ばい、

・カラマツ集成平角は3月は横ばい、4月、5月は強含み。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・新工場稼働と同時に生産を増加する予定。米ヒバは値上げも背景に生産をやや減少させる予定。5月を目途に国産材は増加、外材はやや減少になる見込み。  
・冬場は外気温の低下で生産効率が悪かったが、3月下旬より気温上昇とともに生産量も若干増加する見込み。スギ・カラマツ共に生産した分を出荷している。冬場からの受注残もあり、毎月一定量生産、出荷出来ている。

(構造用集成材の出荷価格動向)

・ヒノキ集成柱は3月に入ってもハウスメーカー、ビルダー向けは好調で、その他一般マーケット向けは値上げも行っている。ヒノキ集成土台は、柱に比べるとメーカーが少ない分価格主導権はメーカー側にあると見ている。一般マーケット向けにじわじわと値上げを提唱中。米ヒバ土台角は、3月、4月で一気に3,000円は上げる。通らなければ出荷出来ない、という強い態度で臨まなければならないほど、原料事情が厳しい。  
・スギは、生産量は安定しているが、大手メーカーの価格帯が指標となっているため値上げには至らない。また、大手メーカーの新工場稼働に伴い、更に値上げが厳しい状況になる見込み。カラマツ土台は、ラミナー価格も横ばいであり、また大手メーカーの価格帯が指標になるため当面は横ばいと見込む。カラマツ平角は、ラミナ価格は横ばいで推移しているが、強度の面からロスが多くなっているため、若干の値上げを検討している。また、アッセンブル対応等、付加価値を付けて値上げに持ち込むことも検討している。